

平成29年度 部局長マネジメント方針

かわかみ ただし
上下水道局経営企画室長 川上 忠司



仕事に対する基本姿勢

日本の人口は2008年の1億2800万人をピークに減少に転じ2048年には1億人を割り込み9913万人、2060年には約8674万人になると予測されています。本市においても緩やかな減少が続き2060年には29万人を割り込むと予測されています。

人口減少や節水器具の普及、節水意識の浸透により水の使用量は減少の一途をたどり上下水道事業の財源の根幹である水道料金・下水道使用料も同様に減少し財政的に益々厳しい環境となります。

さらに老朽化した上下水道施設の更新や大震災に備えた耐震化も急がれており、事業運営は厳しさを増すばかりであります。このような状況でも「安全・安心」な水を持続的にお届けできる上下水道事業経営を目指していかなければなりません。現状の取り組みと将来の見通しを見極めて、持続可能な上下水道事業とするためには何が不足し、今何をしなければいけないのかを把握して、経営の効率化を図るなど財政基盤を強化し、市民の皆さんに信頼される上下水道事業を進めてまいります。

平成28年度の振り返り

現在、上下水道局は水道部門が若江西新町の水道庁舎、下水道部門が荒本の本庁舎に分散しています。上下水道は災害時に市民の皆さんの生命と生活を守るライフラインとして大変重要な役割がありますが、災害対応や復旧の拠点となる水道庁舎は耐震性が低いうえに老朽化が進んでいます。上下水道庁舎の建設につきましては平成28年度着手を目指していましたが、プランの見直しや事業費の精査のため予定より遅れております。今後は少しでも早期に着手・竣工することで上下水道サービスの効率的な提供と危機管理体制を向上させてまいります。

また、水道を取り巻く厳しい状況のなかで水道事業が将来にわたって健全なサービスが持続できるよう、平成28年度から「経営戦略」の策定に取り組んでおります。平成28年度は現状の分析をおこない、主に課題の抽出を図りました。この成果から平成29年度は具体的な取り組みを検討してまいります。

1 上下水道庁舎の建設に着手します

上下水道庁舎は上下水道サービスをお届けする拠点や、上下水道に関係する業務を効率的に運営する拠点であると同時に、大地震などの災害が発生したときには、応急給水や施設の復旧作業の本部となるなど、みなさまのライフラインを担う大切な建物です。

上下水道局では荒本の総合庁舎の西隣に新しい庁舎の建設を進めています。庁舎整備によって、市役所の業務と一体となった市民サービスの向上や業務の効率化と共に、万一の災害に備えた、より安全安心な上下水道サービスを市民の皆様にご提供できるよう庁舎建設に着手してまいります。

2 中長期的な経営の基本計画である「経営戦略」策定に取り組めます

本市の水道事業は昭和 7 年に給水を開始し、また下水道事業も昭和 24 年に事業着手しております。両事業とも保有する施設が老朽化するとともに耐震性の低い施設も多くあり、このことから施設の更新や震災等から守るための整備が必要とされています。また、本市の地形は平坦地が多いことから水道の給水や下水の排水にポンプ施設が必要となり動力費もかかり比較的成本が高くなる条件にあります。その上、人口の減少傾向は顕著であり、景気動向も先行きの見通しに慎重な見方が続いており、節水意識の浸透も相まって料金収入は減少の一途をたどり経営環境は厳しい状況であります。このような下でも、上下水道局は皆様の日常生活に欠くことのできないサービスを提供する役割を担っており、将来にわたってもサービスの提供を安定的に継続することが求められています。

市民生活を支える重要な役割を担う上下水道事業については、将来にわたって健全なサービスを維持できるよう中長期的な経営の基本計画となる「経営戦略」の策定が必要であり、水道事業においては平成 28 年度に経営戦略にかかる現状分析と課題の抽出をおこないました。平成 29 年度では抽出された課題を踏まえ、引き続き経営戦略の策定に取り組めます。